

## [課程-2]

### 審査の結果の要旨

氏名 新垣 円

本研究は、ボランティア学習が自尊心、ソーシャルスキル、向社会的行動に与える効果について、対照群に対する研究群の効果を検証すること、体験の有無の効果の評価すること、ボランティア体験の質が効果に与える影響を評価することを目的とし、学習経験前と学習開始6ヶ月後に計測し検証した、縦断的デザインによる準実験的研究である。本研究では、下記の結果を得ている。

#### 1. 対照校に対する研究校の効果

対照校に対する研究校の効果を調べたところ、自尊心、ソーシャルスキル、向社会的行動ともに学校の効果は有意ではなく、対照校に対して研究校の効果は見られなかった。

#### 2. 体験学習未経験者に対する体験学習経験者の効果

体験学習の効果を検討したところ、自尊心、ソーシャルスキル、向社会的行動ともに体験学習の効果は有意ではなく、体験学習未経験者に対する体験学習経験者の効果は見られなかった。

#### 3. 体験の質による効果の違い

興味との合致度による効果の違いを検討したところ、自尊心、ソーシャルスキル、向社会的行動ともに興味との合致度の効果は有意ではなかった。参加の積極性による効果の違いを検討したところ、自尊心、ソーシャルスキル、向社会的行動ともに参加の積極性の効果は有意ではなかった。意義の理解度による効果の違いを検討したところ、自尊心、ソーシャルスキル、向社会的行動ともに意義の理解度の効果は有意ではなかった。体験満足度による効果の違いを検討したところ、自尊心、ソーシャルスキル、向社会的行動ともに体験満足度の効果は有意ではなかった。よって、効果の質として設定した興味との合致度、参加の積極性、意義の理解度、体験満足度の高低はいずれも自尊心、ソーシャルスキル、向社会的行動の向上に寄与しなかった。

以上、本研究はこれまで実証的に評価されてこなかったボランティア学習について、我が国で初めて対照群を置いた縦断的な研究デザインにより、高校生の自尊心、ソーシャルスキル、向社会的行動に与える効果について評価したものである。その結果、対照校に対して研究校の効果が見られず、ボランティア学習を行っている学校においては、体験学習の効果も見られず、体験の質が効果に与える影響も見られないことを明らかにした。本研究は今後のボランティア学習のあり方に重要な示唆を与えると考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。